

参考資料 流域治水プロジェクト

（淀川流域治水協議会琵琶湖分会資料からの抜粋）

淀川水系流域治水プロジェクト 琵琶湖(滋賀県域)分会【位置図】

～琵琶湖流域人口141万人の「滋賀県民」の命を守る治水対策の推進～

●グリーンインフラの取り組み 『水辺環境の創出などによる人と自然環境のより良い関係の構築』

○日本最大の湖である琵琶湖は、多様な生物が生息する他、下流域や湖周辺の暮らしを支える水資源であり、多くの河川が流入する一方で流出河川は瀬田川のみといった特性を有する。
○滋賀県域においては、今後20年間でヨシ帯再生等の自然環境の保全・復元などの自然再生や、植生護岸等の水質改善対策による健全な水循環系の回復に取り組む。また、小中学校と連携した環境学習や外来生物の駆除など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進する。

：拡充する対策

- 自然環境の保全・復元などの自然再生
 - ・ヨシ帯再生
 - ・瀬・淵再生
 - ・希少種保全（ビワマスの遡上・繁殖環境の整備）
 - ・水質改善（植生護岸工、植生浄化池等）
 - ・湖岸保全（砂浜浸食対策：突堤、養浜等）
 - ・内湖再生

瀬・淵の再生



ヨシ帯再生



希少種保全（鋼製魚道）



湖岸保全（砂浜侵食対策：突堤）



湖岸保全（砂浜侵食対策：養浜）



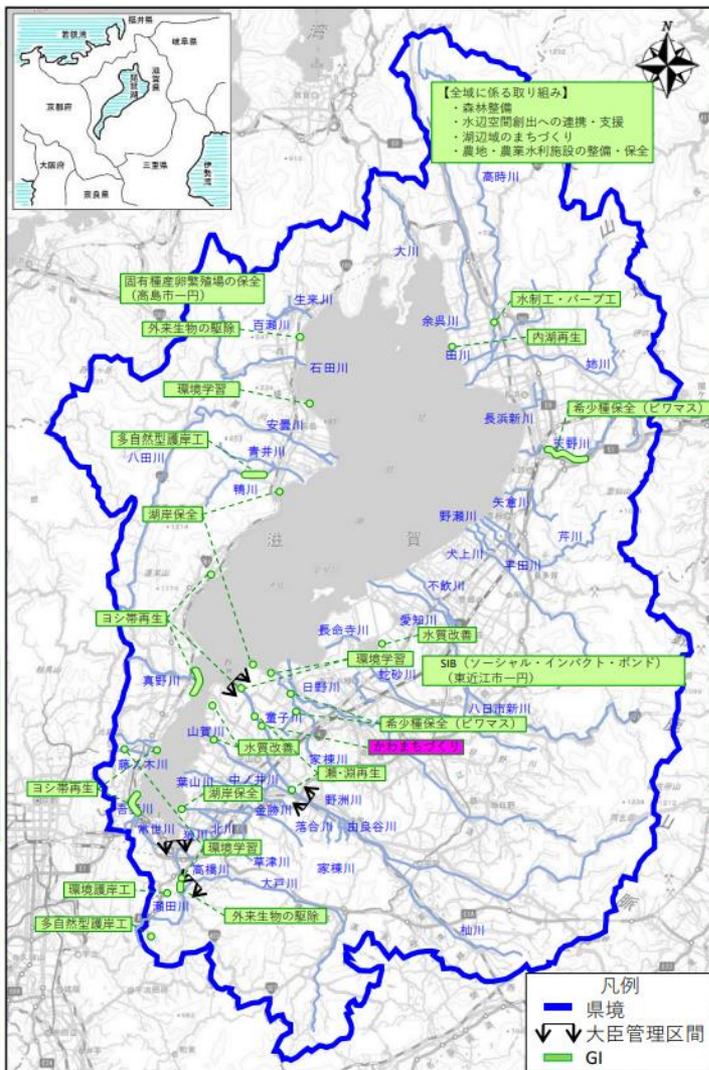
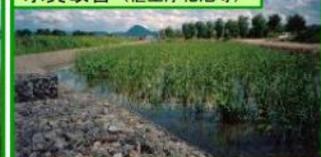
●健全な水循環系の回復

- ・水質改善（植生護岸工、植生浄化池等）

水質改善（植生護岸工）



水質改善（植生浄化池等）



- 多自然川づくり（改修・維持事業等）
- 多自然型護岸工・環境護岸工
- ・水制工・パープエ
- ・希少種保全（ビワマスの遡上・繁殖環境の整備）



- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み
 - ・多様な主体の参画による外来生物の駆除
 - ・地域や小中学校と連携した環境学習
 - ・固有種産卵繁殖場の保全
 - ・SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）



- 魅力ある水辺空間・賑わい創出
 - ・かわまちづくり

- 全域に係る取組
 - ・水辺空間創出への連携・支援
 - ・森林整備
 - ・湖辺域のまちづくり
 - ・農地・農業水利施設の整備・保全

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

淀川水系流域治水プロジェクト 琵琶湖(滋賀県域)分会【流域治水の具体的な取組】

～琵琶湖流域人口141万人の「滋賀県民」の命を守る治水対策の推進～

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）</p>  <p>整備率：77% (概ね5か年後)</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p>39市町村 (令和4年度末時点)</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p>221施設 (令和3年度実施分)</p>	<p>山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 64箇所 (令和4年度実施分) 砂防関係施設の整備数 7施設 (令和4年度完成分) ※施工中 29施設</p>	<p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p>9市町村 (令和4年12月末時点)</p>	<p>避難のためのハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 186河川 (令和4年9月末時点) ※一部、令和4年3月末時点 内水浸水想定区域 7団体 (令和4年9月末時点)</p>	<p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>洪水土砂 14,088施設 避難確保計画 906施設 (令和4年9月末時点) 個別避難計画 44市町 (令和5年1月1日時点)</p>
---	---	---	---	---	---	--

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

洪水氾濫対策



河川改修・維持管理



瀬田川鹿跳溪谷改修

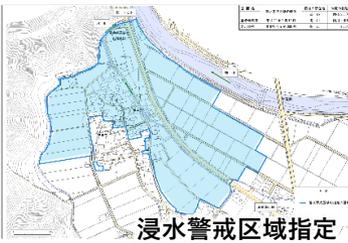
内水氾濫対策



雨水幹線整備

被害対象を減少させるための対策

土地利用・住まい方の工夫



浸水警戒区域指定



宅地嵩上げ等への支援

水害リスク情報の充実



地先の安全度マップの公表

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

水災害リスク情報の充実



水害履歴調査

水災害リスク情報の提供



出前講座

避難体制等の強化



マイタイムラインの作成

※指標の数値は集計中のため変更の可能性があります。※淀川水系全体の指標の数値を記載しています。

特定河川の橋梁改築や放水路整備、大規模掘削等の推進

滋賀県 土木交通部 流域政策局

青井川・日野川流域の計画規模の洪水が生じた場合に氾濫する危険性が著しく高い区間で整備を行っています。

令和5年度：山賀川整備実施区間改修完了

青井川放水路整備完了

令和6年度：日野川大規模特定河川事業（氾濫危険区域河道掘削）着手

令和7年度：大川大規模特定河川事業（氾濫危険区域河道掘削）着手

河川掘削(山賀川)



放水路整備(青井川)



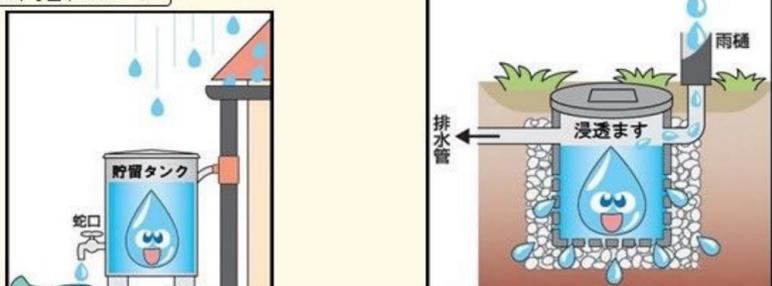
雨水貯留タンク・ますの設置助成

大津市

- 総合的な治水対策としての雨水の流出抑制及び資源の有効利用を図るため、雨水貯留タンク・ますの設置者に対して、助成金を交付する
- R5年度末までに815戸で設置済み

令和5年度 : 申請件数21件(申請額:508,000円)について助成見込。
 令和6年度以降: 予算額(1,500,000円)の範囲内で助成予定。

事業メニューの内容、イメージ



雨水貯留タンク（屋根に降った雨を貯めるタンク）
 雨水浸透ます（屋根に降った雨を地下に浸透させる小さな穴の開いたます）

事業メニューの実施事例



設置している雨水貯留タンク



設置している雨水浸透ます

事業メニューの効果等

たくさんの方が設置し雨水を貯めることで、街の中に小さなダムがたくさんでき、大雨のときの浸水被害を少しでも減らすことができます。小さな雨水タンクでも、集まれば大きな効果を生み出すことが可能です。

課題：全戸数に対して設置戸数が少ない

施設名	助成金額	交付限度額
雨水貯留施設 (貯留槽)	助成対象経費（1建築物当たり1基）の2/3	100e以上 150e未満 25,000円
		150e以上 200e未満 35,000円
		200e以上 40,000円
雨水浸透施設 (浸透ます)	助成対象経費の2/3	60,000円

雨水流出抑制施設の設置

- 公共施設設置に伴う雨水流出抑制施設を推進
- 民間開発等に伴う雨水流出抑制施設の設置を要件化
- 開発前後による浸水被害の防止を図る

事業メニューの内容、イメージ

- ・現況河川の流下能力により流出抑制施設の設置を検討。
- ・開発等の事業により雨水流出抑制施設を設置。
- ・公共施設の新設または改修時に設置を推進。
- ・市に移管された雨水流出抑制施設は定期的に維持管理点検を実施。



事業メニューの実施事例



民間開発による雨水貯留施設設置



公共事業による雨水貯留施設設置

事業メニューの効果

- ・民間開発により設置された雨水貯留施設 N=61箇所。(雨水貯留量 約48,000m³)
※調整池タイプのみ
- ・公共施設により設置された雨水貯留施設 N=18箇所。(雨水貯留量 約 7,000m³)
- ・民間開発、公共施設整備による雨水貯留施設合計で約55,000m³の雨水を貯留。

※令和5年12月現在

浸水警戒区域の指定

滋賀県 土木交通部 流域政策局

- 安心して住める水害に強い地域とするために、滋賀県流域治水条例13条に基づき、地先の安全度マップの200年確率降雨時に概ね3m以上の浸水が予想される区域を浸水警戒区域に指定する。
- 浸水警戒区域の指定に当たっては、地域住民や市町とともに避難計画の作成や安全な住まい方の検討などを実施した上で、地域の合意形成を図り「水害に強い地域づくり計画」を作成する。
- 浸水警戒区域の指定後は、区域内で改築及び新築する時に、安全な避難空間が確保できているかを県が確認する。
- 浸水警戒区域指定時に安全な避難空間がない住居を対象として助成を行っている。

令和5年度 : 長浜市木之本町川合、古橋の2地区において指定した。

令和6年度以降: 重点地区における取組の進捗にあわせ、順次浸水警戒区域を指定する。

事業メニューの内容、イメージ

通常、2階の床面は地盤高から約3mであり、3m以上の浸水が予測される区域では、水害時に命を守るため安全な避難空間を確保することが重要。
 浸水警戒区域内では、改築および新築時の建築確認の前に、浸水に対する安全性を知事が確認する。

建物での対応

避難場所での対応

通常 2階建ては 3m程度

事業メニューの実施事例

平成26年より特に浸水リスクの高い県内の約50地区において、水害に強い地域づくりの取組を順次実施している。
 これまで18地区において、「水害に強い地域づくり計画」を作成し、浸水警戒区域を指定した。(R5.12時点)

浸水警戒区域(赤線)の例

最大浸水深

- 5.0m以上
- 4.0m-5.0m未満
- 3.0m-4.0m未満
- 2.0m-3.0m未満
- 1.0m-2.0m未満
- 0.5m-1.0m未満
- 0.5m未満

1900年に1度の大雨に

琵琶湖流域下水道守山栗東雨水幹線

滋賀県 琵琶湖環境部 下水道課

水災害リスク情報の空白地帯解消の観点から、下水道による浸水対策について、雨水出水浸水想定区域図の策定を行う。

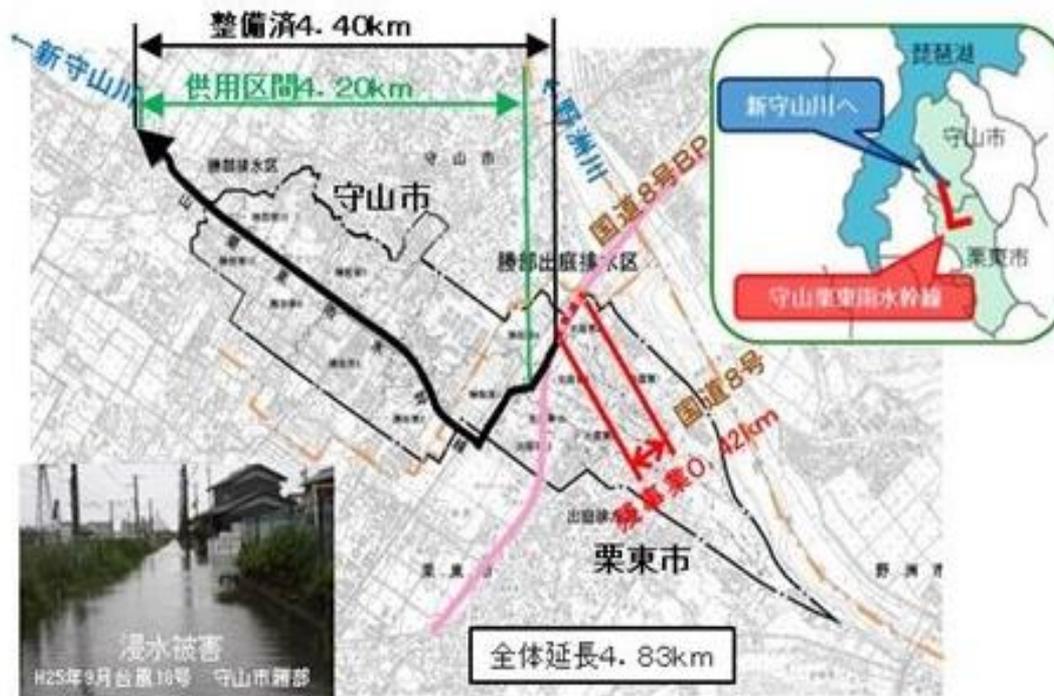
浸水想定区域および浸水した場合に想定される水深を共有し、住民の防災対策に役立てる。

浸水情報と共に避難方法に係る情報も住民にわかりやすく示し、効率的な自助・共助に役立てる。

令和5年度：琵琶湖流域下水道守山栗東雨水幹線浸水想定区域図作成

令和6年度：琵琶湖流域下水道守山栗東雨水幹線浸水想定区域図作成

令和7年度：守山栗東雨水幹線に関する雨水出水浸水想定区域の指定



「生活防災」の実践促進および逃げ遅れゼロ実現事業

滋賀県 防災機器管理局

生活防災など、具体的な防災への備えにつながる県民の防災意識・防災力の向上を図るとともに、逃げ遅れゼロを実現させるための事業である。

「しが防災ベース」の利用者を増やすことを通じて防災に関する情報共有を促すことや「しがマイ・タイムライン」を活用した出前講座の実施などにより、生活防災をはじめとした取組の実践促進や逃げ遅れゼロの実現を期待する。



ピワエン君(防災カフェ編)



防災カフェの様子(感染症対策のため事前の予約が必要ですが、気軽に参加できます。2018年撮影)

「防災カフェ」は、地震や風水害など県民の皆さんの関心の高い危機について、専門家をゲストとして迎え、司会者との会話を通して解説するイベントで、2016年6月から月1回、夕方からコーヒーなどを飲みながら行っています。2020年6月の第46回からは、Zoomなどのテレビ会議システムで開催しています。ゲストととの距離が近く、参加者の皆さんから多くのご意見・ご質問を受けることができると考えています。多くの皆さんのご参加を期待しております。